



本年は 6/5 頃に早く梅雨入りしました。梅雨の期間は、果実腐敗性病害の感染・拡大に好適な高温多湿状態となります。6 月以降の薬剤散布は、予防効果を前提としていますので、雨が続く前に散布を完了するようにしてください。また、6 月初旬から、一部でハダニ類の発生が見られます。主要害虫の発生調査は定期的に行い、盛夏期に入るまでなるべく害虫発生密度を低く保つようにしましょう！

◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

【有袋】6 月下旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期	6 月 25 日～30 日 *注意事項①参照			◆ 散布日	月	日
散布薬剤	水	1 0 0	リットル	◆ 散布量		リットル
	展着剤	2 0	ml *注意事項②参照			
	ダズバン D F	3 3	g (21 日前、3 回) *注意事項③、④参照			
	アントラコール顆粒水和剤	2 0 0	g (45 日前、4 回)			
対象病害虫	黒斑病、黒星病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ、（ハダニ類）*注意事項②参照					
散布量	10 a 当り：450 リットル以上					
注意事項	① 上記の散布時期は目安です。前回散布後から雨が続けている場合は時期を早めて散布してください。 ② 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1,000 倍（100 リットル当り 100ml）を使用すると、薬液付着効果が高まる。 ③ ハダニ類の発生が心配される場合は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（前日、1 回）を加用する。 ④ ダズバン D F は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。 ⑤ 死角がないように散布量は多めに設定する。また、園地の隅や外周等は手散布で補助する。					

（参考）有袋 7 月上中旬の薬剤散布予定：7/10～15

【無袋】6 月下旬の薬剤散布（前回より 10 日後）

散布時期	6 月 20 日～25 日 *注意事項①参照			◆ 散布日	月	日
散布薬剤	水	1 0 0	リットル	◆ 散布量		リットル
	展着剤	2 0	ml *注意事項②参照			
	ダズバン D F	3 3	g (21 日前、3 回) *注意事項③、④参照			
	アントラコール顆粒水和剤	2 0 0	g (45 日前、4 回)			
対象病害虫	黒斑病、黒星病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ、（ハダニ類）*注意事項②参照					
散布量	10 a 当り：450 リットル以上					
注意事項	① 上記の散布時期は目安です。前回散布後から雨が続けている場合は時期を早めて散布してください。 ② 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1,000 倍（100 リットル当り 100ml）を使用すると、薬液付着効果が高まる。 ③ ハダニ類の発生が心配される場合は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（前日、1 回）を加用する。 ④ ダズバン D F は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。 ⑤ 死角がないように散布量は多めに設定する。また、園地の隅や外周等は手散布で補助する。 ⑥ 黒斑病の発生が見られた場合はロブドー水和剤 800 倍(14 日前、5 回)を特別散布する。 ⑦ 無袋栽培の薬剤散布間隔は、今回から梅雨が空ける 7 月中旬（第 10 回）までは、概ね 10 日で進めてください。					

（参考）

無袋第 7 月上旬の薬剤散布予定：7/1～5

無袋第 7 月中旬の薬剤散布予定：7/10～15

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

西洋梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

高温多湿状態となるこの時期は、輪紋病の最重要防除期間です。この時期の薬剤散布は予防効果を前提としていますので、梅雨の晴れ間をみて遅れないように実施してください。この期間に輪紋病の感染が進むと、果実成熟期に多発しますので、早めの薬剤散布及び袋掛けを実施してください。また、ハダニ類も密度が低い状態から防除しておくことで、盛夏期の発生を抑えられます。よって、今回の防除から徹底していきましょう。（詳しくは下記によります）

◆ 6月下旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期	6 月 20 日～25 日頃 *注意事項①、②参照		
散布薬剤	水	1 0 0 ℓ	
	展着剤	1 0 mℓ	
	カネマイトフロアブル	1 0 0 mℓ	（前日、1 回）
	サムコルフロアブル 1 0	2 0 mℓ	（前日、3 回）
	オキシラン水和剤	2 0 0 g	（3 日前、9 回） *注意事項③参照
対象病虫害	輪紋病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、（腐らん病）		
散布量	10 アール当り：600 リットル		
注意事項	① 今回の薬剤散布は、袋掛け前に確実に実施する。また、散布後 3 日以内に袋掛けを完了する。また、雨が続けている場合は、上記の散布時期より前倒して実施する。 ② 散布後 3 日以上経過し、袋掛け前に雨が あった場合は、オキシラン水和剤 500 倍（3 日前、9 回）を特別散布してから袋かけを行なう。 ③ 有機銅成分を含む薬剤（オキシラン水和剤やキノンドーフロアブル等）の使用回数は合計で 9 回以内であるので注意すること。 ④ 死角がないように散布量は多めに設定する。また、園地の隅や外周等は手散布で補助する。また、葉やけ防止のため、涼しい時間帯に散布する。 ⑤ 腐らん病感染拡大防止のため、見つけ次第病斑部にトップジンMペーストを塗布する。		

（参考）
西洋梨有袋 7 月上旬の薬剤散布予定：7/10～15（前回より概ね 20 日後）

◆ 有袋栽培の推進について

西洋梨販売先からのクレームは、無袋栽培に集中しています。特に果実腐敗性の輪紋病対策・品質向上・ロス率の軽減のため、積極的に袋掛けを実施しましょう！

やむを得ず、無袋栽培に取り組まれる方は、6 月中旬から薬剤散布内容が変わりますので、園芸技術課までご連絡ください。無袋の特報を配布いたします。（第 1 報 6/13 発行済み）

◆ 仕上げ摘果について

現地では、摘果作業の遅れが目立ちますので、早めに進めましょう。ラ・フランスの着果量は概ね確保されている状況ですが、着果のバラツキがある場合は枝や樹毎に調整を図り、生産量の確保に努めましょう。

5 月下旬からケムシ類・カメムシ類等の食害果や極端に肥大が悪い果実も目立ちますので、仕上げ摘果の段階でできるだけ排除するようにしましょう！